

自分の考えを表現する力を育てる社会科学学習

名古屋市立楠中学校教諭 杉 本 大 幸

I 研究のねらい

私が考える「自分の考えを表現する力」とは、「社会的事象同士を関連付けて理解し、対話を通じて自分の考えを表現する力」である。

中学校学習指導要領解説社会編によると「表現する力」は「思考力・判断力・表現力等」に対応し、「考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力」としている。また、ナゴヤ学びのコンパスでは「子どもたちに見られる個人差、一人一人の子どもに見られる特徴的な思いや願いは、全てその子ならではのかけがえのなさとして尊重され、学びの中で生かされるべきもの」としている。以上から、一人一人の考えを大切にしながら「自分の考えを表現する力を育てる社会科学学習」を行いたいと考える。

私はこれまでの授業において、学習した内容を、主に文章を記述させることで表現させていた。しかし、生徒の中には、用語・語句は答えられるものの、文章の記述でまとめようとする手が進まってしまう生徒や、例示したものだけをそのまま記述してしまう生徒がいた。成果を互いに発表する際には、文章の記述が得意な生徒が活躍する状況であった。文章の記述ができていない生徒の、ノートの内容を分析すると、社会的事象同士を、絵や図を用いて関連付けて理解できていることが分かった。さらに、一人では文章の記述ができなかった生徒のうち、対話をきっかけに自分の考えを文章で記述できるようになった生徒もいた。そこで、本研究では、社会的事象同士を、絵や図を用いて関連付けて理解し、他者との対話を通じて、自分の考えを表現できる姿を「育てたい生徒像」として設定し、研究を進めることにした。

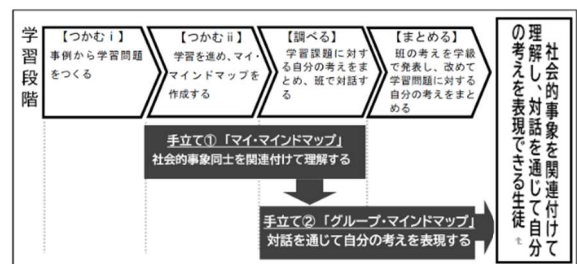
私は、課題解決の手段としてマインドマップに着目した。マインドマップを考案したトニー・ブザン、バリー・ブザンは、「マインドマップは、脳の潜在能力を解き放つ鍵となる強力な視覚的手法である。広げたアイデアを関連付け、比較的容易に整理でき、記憶に長く残すことができる。学習能力を高めたり、考えを明らかにしたりするのに役立つ。子どもは、自分を表現できるようになる」としている。また、「他者のマインドマップを結合させることで、連想を他者の範囲にまで広げられる」ともしている。このことから、マインドマップを用いれば、社会的事象同士を関連付けて理解できると考える。そして、他者との対話を通じて、連想を他者の範囲にまで広げ、他者の視点や、異なる考え方を知り、自分の考えを表現できるのではないかと考えた。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立楠中学校 第3学年 34人

2 基本的な考え

育てたい生徒像に迫るために、「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習段階を設定し、学習を進めることにした。まず、学習内容を基に「マイ・マインドマップ」を作成する。そして、「グループ・マインドマップ」の作成を通じて、他者と対話し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。二つのマインドマップを作成・活用することで、社会的事象を関連付けて理解し、対話を通じて自分の考えを表現できるようにする。【資料1】

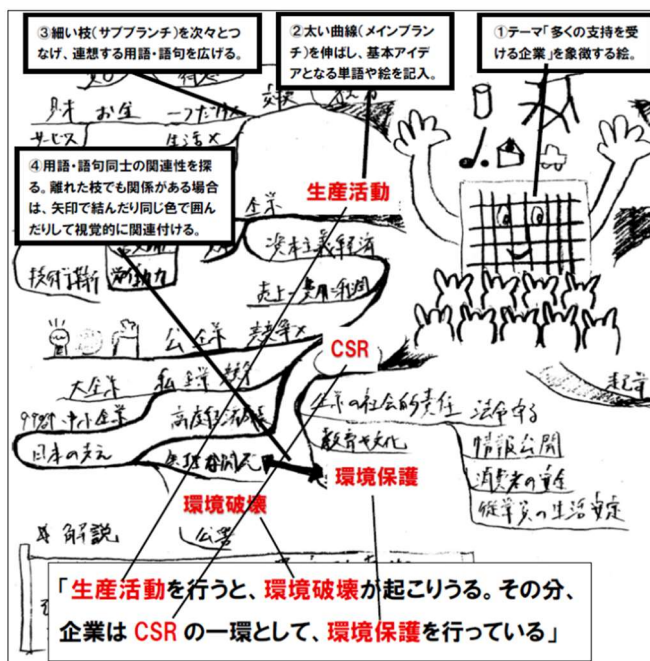


【資料1 学習活動の流れと手立て】

(1) 社会的事象を関連付けて理解するための「マイ・マインドマップ」

「つかむ」段階と「調べる」段階で用いる。具体的な作成手順は、①紙の中心にテーマを象徴する絵を描く。②そこから太い曲線（メインブランチ）を伸ばし、基本アイデアとなる単語や絵を記入する。③更に細い枝（サブブランチ）を次々とつなげ、連想する用語・語句を広げていく。④描き終えたら全体を俯瞰し、用語・語句同士の関連性を探る。離れた枝でも関係がある場合は、矢印で結んだり同じ色で囲んだりして視覚的に関連付ける。

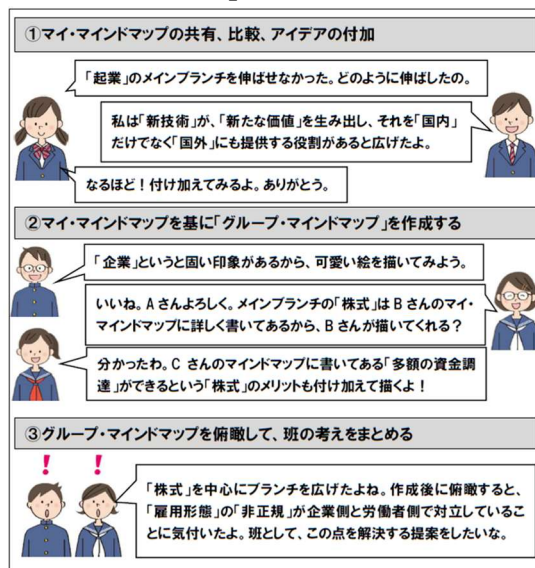
このように、これまで学習した内容を可視化することで、社会的事実同士の関連を俯瞰して、理解することができる。例えば、【資料2】下部の解説のように、「生産活動を行うと、環境破壊が起こる。その分、企業はCSRの一環として、環境保護を行っている」とい



【資料2 一部抜粋したマイ・マインドマップの作成イメージ】
 うような文章の記述を想定する。

(2) 対話を通じて自分の考えを表現するための「グループ・マインドマップ」

「調べる」段階で用いる。マイ・マインドマップを基に班でグループ・マインドマップを作成する。具体的な作成手順は、①最初にマイ・マインドマップを班員で共有して比較し、不足している部分や出てきたアイデアをマイ・マインドマップに色を変えて付け加える。②その後、マイ・マインドマップを確認しながら、模造紙にグループ・マインドマップを作成する。中心の絵から互いに不足している部分を補完しつつ枝を伸ばしていく。その際、色や記号、絵の使い方を班員と対話しながら作成する。③作成後にグループ・マインドマップを俯瞰して、班の考えをまとめるために、社会的事象の関連や対立から生じる問題を確認する。最後に班の考えをまとめたものを解説として記述する【資料3】。班の考えを学級で発表した後に、改めて、他者との対話を通じて、連想を他者の範囲に広げ、自分の考えを表現することができる。



【資料3 作成時の対話イメージ】

る【資料3】。班の考えを学級で発表した後に、改めて学習問題に対する自分の考えをまとめる。このように、他者との対話を通じて、連想を他者の範囲にまで広げ、他者の視点や、異なる考え方を知り、自分の考えを表現することができる。

3 6月実践「人権と共生社会」10月実践「生産と労働」における学習展開

単 元 と 目 標	単元「人権と共生社会」(12 時間完了) 【実践のねらい】 様々な人権侵害の解決を憲法の「個人の尊厳と平等」の原則や保障される人権の内容と関わらせて考え、国民一人一人が責任と義務を果たし、人間を尊重する努力を続ける社会をつくることの大切さに気付き、どのように社会参画していくか、考察し、表現することができる。	単元「生産と労働」(12 時間完了) 【実践のねらい】 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考えることを通して、現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合及び労働基準法の意義に気付き、経済的な視点でどのように社会参画していくか、考察し、表現することができる。
----------------------------------	---	---

段階	主な学習活動（丸数字は時間）	
つかむ	① 人間らしく幸せに生きるために必要な権利は何か考え、発表し、学習問題をつくり、答えを予想する。 【学習問題】 どのような工夫があれば、誰もが幸せに生きる社会をつくれるだろうか。 ②～⑤ 平等権、自由権、社会権、人権を保障するための権利、公共の福祉、新しい人権の学習を進める。毎時間の最後にマイ・マインドマップを作成する。テーマを「誰もが幸せに生きる社会」とする。	① 好きな会社とその理由を考えて発表し、学習問題をつくり、答えを予想する。 【学習問題】 どのような企業が多く支持を受けるのだろうか。～学校生活をより良くするグッズやサービスを開発しよう。～ ②～⑤ 資本主義経済、企業の仕組み、企業の役割、起業、CSR、株式、労働者の権利や法の学習を進める。毎時間の最後にマイ・マインドマップを作成する。テーマを「多くの支持を受ける企業」とする。
調べる	⑥ ゲストティーチャー（キャリアナビゲーター）の講演を聞き、人権について実際の事例を通じて学習する。 ⑦ マイ・マインドマップを俯瞰し、用語・語句同士の関連性を探る。 【検証場面1】 ⑧ グループ・マインドマップを作成する。作成後に俯瞰して、社会的事象同士の関連や対立から生じる問題を確認する。その問題を解決するような、誰もが幸せに生きるための工夫をテーマとする。	⑥ ゲストティーチャー（起業家）の講演を聞き、起業家精神や、お金を稼ぐ考え方について学習する。 ⑦ マイ・マインドマップを俯瞰し、用語・語句同士の関連性を探る。 【検証場面1】 ⑧ グループ・マインドマップを作成する。作成後に俯瞰して、社会的事象同士の関連や対立から生じる問題を確認する。その問題を解決するような、事業計画をテーマとする。
まとめる	⑨ 前時に決めたテーマを基に、マイ・マインドマップを作成する。 ⑩ グループ・マインドマップを作成し、班の考えとしてまとめる。 【検証場面2】 ⑪ ピッチ（短い発表）大会を行う。グループ・マインドマップを基に発表し、お互いに評価し合う。 ⑫ 学習問題について、最終的な自分の考えをまとめる。 想定される生徒のまとめの記述 SNSの発信については、表現の自由を正しく理解し、画面の向こうに多様な背景をもつ他者がいることを想像する必要がある。自分の意見を主張する際も、他者の人権を不当に侵害していないか、公共の福祉の視点で客観的に吟味する力が重要である。互いの違いを認め合い、対話を通じて利害を調整していく工夫が必要である。	⑨ 前時に決めたテーマを基に、マイ・マインドマップを作成する。 ⑩ グループ・マインドマップを作成し、班の考えとしてまとめる。 【検証場面2】 ⑪ ピッチ大会を行う。グループ・マインドマップを基に発表する。発表を聞く側は投資家として発表を聞き、投資する。 ⑫ 学習問題について、最終的な自分の考えをまとめる。 想定される生徒のまとめの記述 起業家の方から、企業には利益追求だけでなく、持続可能な社会を支える責任があると学んだ。多くの支持を受ける企業は、自分たちが作りたいものだけでなく、多様な他者のニーズを捉えたサービスを追求し、社会全体の幸せと自社の成長を両立させる視点をもつ企業である。こうした挑戦を支える社会の仕組みがあることを理解する必要がある。

4 生徒の実態調査

単元「第二次世界大戦と日本」の「つかむ」段階から「調べる」段階において、社会的事象を関連付けて理解し、表現できているか。授業終末のまとめの記述内容から調査する。

また、「まとめる」段階において、対話を通じて、自分の考えを表現できているか。単元終末のまとめの記述内容から調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「つかむ」段階から「調べる」段階において、マイ・マインドマップを作成する活動は、社会的事象を関連付けて理解することに有効か、マイ・マインドマップの記述と第7時終末のまとめの記述内容からつかむ。
- (2) 「まとめる」段階において、グループ・マインドマップを作成することは、対話を通じて自分の考えを表現するために有効か、グループ・マインドマップ作成前後の授業終末のまとめの記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践单元「人権と共生社会」 【検証点1】 「つかむ」段階から「調べる」段階において、マイ・マインドマップを作成する活動は、社会的事象を関連付けて理解することに有効か、マイ・マインドマップの記述と第7時終末のまとめの記述内容からつかむ。 【検証点2】 「まとめる」段階において、グループ・マインドマップを作成することは、対話を通じて自分の考えを表現するために有効か、グループ・マインドマップ作成前後の授業終末のまとめの記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・アルマ・クリエーション株式会社 神田昌典氏 ・株式会社ティズム 近田美季子氏 ・法政大学 姜理恵氏 ・創価大学 関田一彦氏 ・横浜国立大学 斉藤仁一朗氏 ○ 第2次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。
9	○ 長期研修（B日程）研究先進校や、先行研究者を訪問し、研究を深める。
10	・筑波大学附属中学校 関谷文宏氏 ・東京学芸大学附属世田谷中学校 金城和秀氏 ○ 第2次授業研究実践单元「生産と労働」 長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、
12	最終報告書を作成する。
1	○ 「自分の考えを表現する力を育てる社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、
2	発表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献

- トニー・ブザン、バリー・ブザン『ザ・マインドマップ』神田昌典 ダイアモンド社（2005）
 トニー・ブザン、バリー・ブザン『新版ザ・マインドマップ』近田美季子 ダイアモンド社（2013）
 関田一彦、山崎めぐみ、上田誠司『授業に生かすマインドマップ』ナカニシヤ出版（2016）